

函館市観光基本計画2014－2023

中間評価報告書

令和2年（2020年）1月

函館市観光アドバイザー会議

目 次

1. 中間評価を行うにあたって.....	1
2. 函館市観光基本計画2014-2023の概要.....	2
3. 中間評価実施方法.....	3
4. 目標値の達成状況.....	4
(1) 観光入込客数.....	4
(2) 平均宿泊数.....	4
(3) 観光客満足度.....	4
(4) 来函外国人宿泊者数.....	4
5. 施策および具体的取り組みの進捗状況.....	5
6. 中間評価内容について.....	6
(1) 観光基本計画における目標値について.....	6
(2) 各施策の具体的取り組みに対する評価.....	7
(3) 現計画期間において特に積極的に進めるべき施策.....	28
(4) 次期計画策定に向けて.....	29
7. 参 考.....	30

1. 中間評価を行うにあたって

現行の「函館市観光基本計画2014-2023」（以下「観光基本計画」という。）は、2014年度に策定され、計画期間の終年度は2023年度となっているが、策定以降、現在に至るまでの本市観光を取り巻く情勢は、旅行形態の個人化のさらなる加速とそれに伴う旅行ニーズの多様化、インバウンドの急増、またAI・IoTやSNSの普及も相まって、大きく変化してきている状況にある。

これらの状況を踏まえ、観光都市函館における観光産業が持続した発展を続けるためには、変化に対し、迅速かつ的確に対応した施策展開が重要であると考えます。

当報告書は、観光基本計画に登載されている目標値のほか、施策および具体的取り組みについて、その達成状況や進捗状況を確認するとともに、個々の具体的取り組みについて、函館市観光アドバイザー会議（以下「当会議」という。）としての中間評価を実施し、今後における観光振興施策の展開に際しての優先度を明示したほか、2024年度より開始する次期観光基本計画を策定するにあたっての指針となるべき事項についても言及した。

2. 函館市観光基本計画2014-2023の概要

《計画策定の目的》

函館市の観光基本計画は、時代の流れや旅行ニーズの多様化に合わせ、過去3回にわたり策定してきた。この度、次の時代へ向けた函館観光の更なるステップアップを図ることを目的に、新たに第4次となる函館市観光基本計画を策定した。

《計画期間》

2014年度から2023年度までの10年間

《基本理念》

人・まち・文化の宝石箱 新・国際観光都市 函館へ

《基本方針》

交流・にぎわいの創出

市民と観光客がともに集い、楽しむことで、様々な交流が生まれる、にぎわいのあるまち

おもてなし・満足度の向上

観光客の満足度が極めて高い、おもてなしにあふれたまち

国際化の促進

海外からの観光客が安心して快適に楽しめる、世界に通じる観光のまち

《5つのキーワード》

函館ブランド

プロモーション

ホスピタリティ

もう一泊したいまち

MICE

《目標値の設定》

北海道新幹線開業を契機とした観光入込客数の底上げ
観光入込客数 **550万人**の達成

平均宿泊数の増加
2023年度平均宿泊数の目標値 **1.28泊**

函館の印象について、「とてもよい」の回答率向上
2023年度観光アンケート調査「函館の印象」の目標値 「とてもよい」の回答 **80%**

来函外国人宿泊者数の増加
2023年度外国人宿泊者数の目標値 **30万人/年**

《施策》

- 街並み・歴史的建造物の保全・活用の推進
- アートディレクション機能の充実
- 広域連携の推進
- 魅力ある食・土産品の創造および周知
- ホスピタリティ意識の醸成および顕在化
- 市内における観光情報の充実
- 交通アクセス環境の整備
- 周遊性の向上
- 祝祭都市に向けた取組み
- 長期戦略形成へ向けた取組み
- 新たな観光資源の創出
- 観光メニューの充実
- 秋冬の魅力の向上や発信
- 市民主体の歓迎
- 人材の育成
- 多様な媒体を通じた情報の発信
- 空港・港湾機能の充実
- MICE受け入れの強化
- 誘致宣伝活動の実施

3. 中間評価実施方法

中間評価にあたっては、次の手順により実施した。

1 目標値の達成状況確認

- ・観光基本計画の目標値について、達成状況を確認

2 施策および具体的取り組みの進捗状況確認

- ・観光基本計画に登載している85件の具体的取り組みについて、函館市の所管部局による進捗状況評価を確認

3 施策および具体的取り組みに係る当会議委員評価実施

- ・観光基本計画に登載している85件の具体的取り組みに対し、当会議の各委員における評価を実施

4 施策および具体的取り組みに係る当会議委員評価に基づく当会議としての評価確定

- ・当会議の各委員による評価を実施した85件の具体的取り組みに対し、当会議としての中間評価確定に向けた協議を実施し、中間評価を確定

5 次期観光基本計画策定に向けた提言

- ・現状の課題などを踏まえ、当会議における次期計画策定に向けた提言を取りまとめ

6 中間評価報告書の取りまとめ

- ・上記協議等を踏まえ、当会議の答申として中間評価報告書を作成

4. 目標値の達成状況

観光基本計画では、2023年度を目標年次に目標値を設定したところであり、各目標値の達成状況は以下のとおりとなっている。

(1) 観光入込客数

- ・目標：北海道新幹線開業を契機とした観光入込客数の底上げ

目標値 2023年度	達成状況 2016年度	現状 2018年度	目標値達成状況
550万人	560万人	526万人	目標値達成

(2) 平均宿泊数

- ・目標：平均宿泊者数の増加を目指す。

目標値 2023年度	達成状況 2016年度	現状 2018年度	目標値達成状況
1.28泊	1.27泊	1.27泊	目標値まであと0.01泊増

(3) 観光客満足度

- ・目標：函館の印象について、「とてもよい」の回答率向上を目指す。

目標値 2023年度	達成状況 2015年度	現状 2018年度	目標値達成状況
80.0%	81.1%	65.0%	目標値達成

※参考：函館の印象「とてもよい」と「よい」を合わせた回答

	2015年度	2018年度
	98.5%	94.3%

(4) 来函外国人宿泊者数

- ・目標：来函外国人宿泊者数の増加を目指す。

目標値 2023年度	達成状況 2014年度	現状 2018年度	目標値達成状況
30.0万人	34.6万人	55.1万人	目標値達成

5. 施策および具体的取り組みの進捗状況


観光基本計画に登載している19の施策を構成する85件の具体的取り組みについて、函館市の所管部局による2018年度末時点の進捗状況評価を実施した。

評価は、具体的取り組み毎に「廃止・変更」、「未着手」、「検討段階」、「実施段階」、「事業完了」の5区分に分類し行った。

評価結果は下表のとおりとなっており、実施段階以上にあるものをカウントした事業進捗率は90.5%となった。

【具体的取り組み進捗状況評価結果】

進捗状況	廃止・変更	未着手	検討段階	実施段階	事業完了	合計
数	2	2	4	65	12	85
構成比(%)	2.4%	2.4%	4.7%	76.4%	14.1%	100.0%

 事業進捗率：90.5%

6. 中間評価内容について

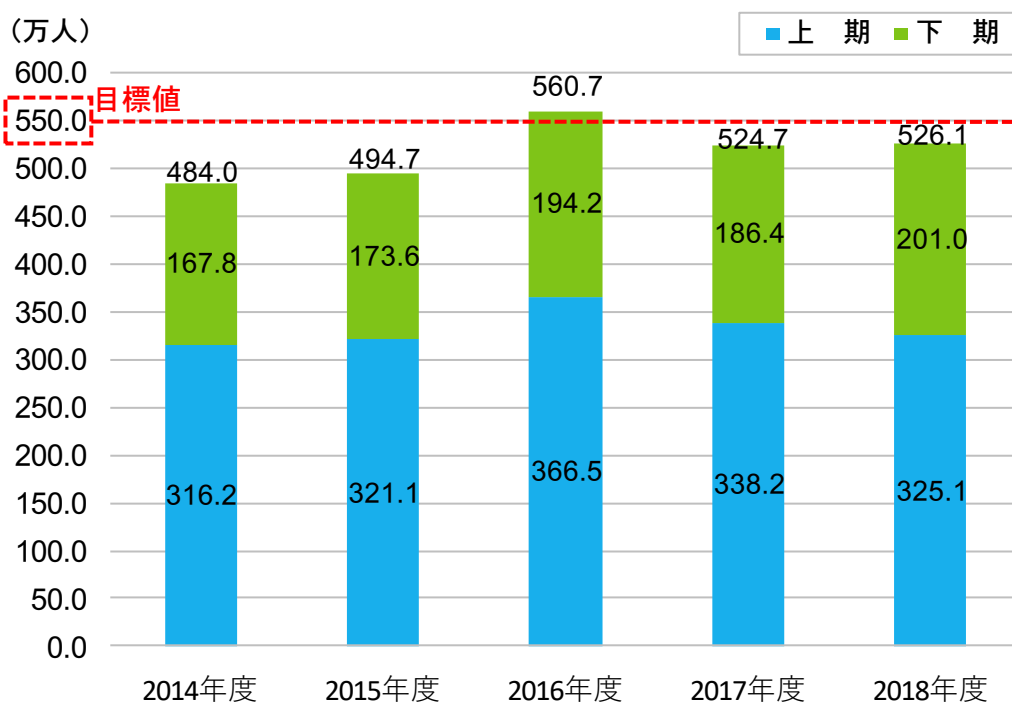
(1) 観光基本計画における目標値について

ア 観光入込客数

北海道新幹線の開業年である2016年度の観光入込客数は、約560万7千人を記録し本計画の目標値550万人を達成したものの、その後は目標値に届いておらず、2017年度は約524万7千人、2018年度は約526万1千人と推移している。

このことから、今後も引き続き観光入込客数550万人を誘客できる観光施策の推進が必要だと考える。

【来函観光入込客数の推移】



出典：来函観光入込客数推計（函館市観光部）

(2) 各施策の具体的取り組みに対する評価

観光基本計画に登載している19の施策を構成する85件の具体的取り組みについて、函館市の所管部局による2018年度末時点の進捗状況評価を踏まえ、残計画期間中の函館観光の振興発展に資するため、当会議において具体的取り組み毎に今後の優先度に応じて下記4分類の評価を実施するとともに、評価に関する意見を付した。

【評価分類】

評価	評価基準	評価件数
積極推進	今後における函館観光の振興に欠くことのできない重要な施策で、計画終年度までの間に優先的に実施すべきと考えられる取り組み	41件
現状推進	函館観光の振興を図る上で重要な施策であるが、現在順調に施策が展開されており、現状のまま推進することが望ましいと判断される取り組み	42件
廃止・変更	函館市および函館観光の現状から判断し、実施主体となる行政や民間で大きな財政負担を伴うなど事業自体を廃止することが望ましいと考えられるもの、もしくは、内容を変更することにより効果が期待できるような取り組み	2件
保留	観光施策に特化とした評価を行うことから、市民生活に直結する取組みのため、評価を保留する取り組み	0件

【施策別評価件数】

No	施策	具体的 取り組み 件数	積極 推進	現状 推進	廃止・ 変更
1	街並み・歴史的建造物の保全・活用の推進	2	2	-	-
2	新たな観光資源の創出	5	3	2	-
3	アートディレクション機能の充実	5	1	3	1
4	観光メニューの充実	5	1	4	-
5	広域連携の推進	2	-	2	-
6	秋冬の魅力の向上や発信	2	2	-	-
7	魅力ある食・土産品の創造および周知	7	2	4	1
8	市民主体の歓迎	4	3	1	-
9	ホスピタリティ意識の醸成および顕在化	6	-	6	-
10	人材の育成	4	-	4	-
11	市内における観光情報の充実	8	5	3	-
12	多様な媒体を通じた情報の発信	4	-	4	-
13	交通アクセス環境の整備	5	3	2	-
14	空港・港湾機能の充実	5	4	1	-
15	周遊性の向上	3	-	3	-
16	MICE受け入れの強化	6	3	3	-
17	祝祭都市に向けた取組み	2	2	-	-
18	誘致宣伝活動の実施	5	5	-	-
19	長期戦略形成へ向けた取組み	5	5	-	-
計		85	41	42	2

具体的取り組み毎の評価および意見については、次ページ以降のとおりとなっている。

施策	具体的取り組みおよび実施時期	概要	函館市所管部局における進捗状況評価	評価	当会議としての意見
街並み・歴史的建造物の保全・活用の推進	No. 1-1 伝統的建造物の保存・活用【通期】	歴史的に価値のある伝統的建造物等の保存および活用	●実施段階・終期が定まっていないため、今後も引き続き継続していく。	積極推進	<ul style="list-style-type: none"> ●今年には日下部邸が取り壊されるなど、伝建の維持・保存が問われている。今後も積極的な取り組みが必要と思う。 ●保存に関しては、地域社会側の仕組みが脆弱である。また景観形成地域が狭く、市内に広がるせつかくの貴重な資源が顕在化していない。さらに景観形成地域内でも建造物に偏重しがちで石垣や植栽等の工作物や環境物件、またそれらの構成原理を大切にしたい取り組みが重要。活用については、店舗や宿泊施設だけでなく、住宅としての活用を視野に入れた二地域居住やコレクティブハウス、クリエイティブクラス向け、学生や単身者向け等の新たな住まい方を検討することが大切。また、JC によるウォータースライダーのように、道路や公園などの多目的活用による賑わい創出や住宅環境としての質の向上が重要。そのためには公民連携型で進めることが求められ、とくに観光・経済政策との連動が不可欠となる。 ●色々な事情があるかとは思いますが、北方歴史資料館が閉館したり旧小林写真館の写真館としての営業が終わってしまうことに心を痛めている。こういう既にある「深い」コンテンツを大切にできたらと思う。 ●回遊を促す「連続性」を念頭に置いた補助対象の選定が必須と思われる。 ●伝統的建築物の適正な維持管理は函館観光における魅力の確保に直結すると考えられるので積極推進が望ましいと思う。 ●西部地区やベイエリアにある伝統的建造物は函館の宝である。 ●中華会館について、現在閉館中であるが所有者と協議して一般公開(入館料設定)に向けた支援が求められる。
	No. 1-2 都市景観の形成に関する各種助成制度の利用促進【通期】	景観形成指定建築物等の保全や都市景観の形成に関する各種助成制度の利用促進	●実施段階・終期が定まっていないため、今後も引き続き継続していく。		積極推進

施策	具体的取り組み および実施時期	概要	函館市所管部 局における進捗 状況評価	評価	当会議としての 意見
新たな観光資源の創出	No. 2-1 さらなる観光資源の創出と活用【通期】	歴史、文化、自然など、埋没している観光資源の掘り起しと活用	●実施段階 ・終期未定。当面の間は継続。	積極推進	<ul style="list-style-type: none"> ●イベント開催について、市民向けの広報が不足していたように感じられる。より積極的な広報を通じて、市民を巻き込んだイベントにしていくのではないかと。 ●これまでは既存の顕在化した観光資源の再評価、関係者間の関係調整による体制構築といった取り組みであると捉えており、一定の評価をすることが出来る。今後は、新たな観光動態(FIT化、滞在・体験型化)に対応した地域資源のつなぎ直し(ストーリーづくり)に加え、潜在化するが有望な地域資源の観光への活用に関する取り組みの支援を行うことが望ましい。その前提として、民間主導、あるいは官民連携で取り組むことが望ましいと考える。 ●「恋人」というテーマに関しては、若者を中心に「なぜ?」とか、「唐突すぎる」、「無理がある」などの意見が多々みられる。 ●従来の事業との重複が多い。 ●函館の観光誘致の攻めの施策として受け入れ側の立場から更なる推進の期待。 ●「はじまる、恋。函館」についてはイメージ先行となっており、具体的な訴求すべき客層のマーケティングを行った上で推進すべきだと思う。また、フェスティバルタウン構想は目指すところと具体的な施策を明確にしつつ推進することが望ましいと考える。
	No. 2-2 既存観光資源等の再整備の推進【通期】	既存の観光資源やその周辺など、雰囲気、景観、歴史などを生かし、さらなる魅力向上を図るための再整備の推進	●検討段階 ・2019年度に盤面の貼り替えに合わせ、QRコードを活用した多言語化整備を行う。	現状推進	<ul style="list-style-type: none"> ●上記したとおり、新たな観光動態(FIT化、滞在・体験型化)に対応した地域資源のつなぎ直し(ストーリーづくり)が重要であると考えられる。 ●無理に多言語化に拘る必要性を感じていない。最低限英語表記は必要だとは考えるが。 ●函館への観光目的でのFITの増員拡大を期待する。 ●多言語化対応も必要だが、QRコードを利用することで説明内容の充実、写真アプリなどの活用で1ビジュアル面にも訴える仕掛けなども視野に入れると思う。(一例として上野国立博物館)
	No. 2-3 グリーンプラザや市道広小路の整備【前期】	駅前通との連続性を考慮しつつ、観光名所・イベント機能も兼ね備えたにぎわい交流空間としての整備	●実施段階 ・継続。	積極推進	<ul style="list-style-type: none"> ●イベント開催について、市民向けの広報が不足していたように感じられる。 ●エリアマネジメントの考え方を前提とした新たな公民連携の取り組みと連動するべき。 ●グリーンプラザにて、オリンピック種目にもなっている3×3のバスケの大会を開催したい。 ●夜に観光客が楽しめる場所作りに貢献。 ●夜間観光への取り組みは急務であり食の魅力だけに頼るのではなく、エンターテインメント、夜市、フェスティバルなどの開催可否についても引き続き検討し推進していく方が良く考える。 ●通年での利活用法(賑わい)を見出す必要がある。 ※札幌大通公園、旭川買い物公園の小規模版のようなイメージ
	No. 2-4 はこだておもしろ館の整備【前期】	函館駅前若松地区第一種市街地再開発ビル内に、広く市民や観光客が様々な分野の情報等をバーチャル体験し、交流できる施設を整備	●事業完了 ・2016年度。	現状推進	<ul style="list-style-type: none"> ●駅前・大門地区の再生において、どのような役割を担うかについて、実質的な議論の場の設定や具体的な展開を検討するべき。 ●入館料を半額にし入場者数は増加したものの、単価の引き下げをカバーするに至っていないと聞いた。担当されている方のご尽力を拝察する。ただ、施設オープンはゴールではないので、今後、みらい館をどのような位置づけとし、入場者数を増やすのか、ターゲットに対して価値を提供できているのか、など議論する必要がある。

施策	具体的取り組み および実施時期	概要	函館市所管部 局における進捗 状況評価	評価	当会議としての 意見
新たな観光資源の創出	No. 2-5 函館駅に隣接した新たな観光施設の整備【前期】	函館駅前におけるにぎわい創出のため、菓子の製造過程が見学できる工場や飲食・物販スペース、さらには市民や観光客が自由に集える公園を整備	●実施段階 ・2019年12月にホテルと店舗からなる複合商業施設オープン予定。	積極推進	●どのような複合商業施設になるのか、今から期待される。 ●駅前・大門地区の再生において、どのような役割を担うかについて、実質的な議論の場の設定や具体的な展開を検討すべき。 ●函館市、特に駅前地区のホテル乱立は異常とも思える。商業施設は歓迎する。 ●現実問題として廃止も変更もできないことは承知しているが、それでもこれ以上ホテルが増えること、複合商業施設が成り立つのか、など不安を感じる。 ●近年、函館駅エリア～ベイエリアにかけて新規ホテルが乱立する傾向であるが、人材確保・サービスの質の面での不安はないか。 ●商業施設も持続可能な魅力あるサービスの提供が求められる。(新函館北斗駅隣接の商業施設は考えさせられる問題提起をしている。)
アートディレクション機能の充実	No. 3-1 函館ロゴマークの活用【通期】	ポスター、パンフレット、グッズ、ホームページ、各種事業など、多方面にわたる函館ロゴマークの活用推進	●実施段階 ・本計画終了時まで引き続き活用促進に努める。	現状推進	●ゴミ袋のイメージになっている。 ●定着認知されているのであれば。 ●ロゴマークは長期間運用することで認知される。 ●函館ロゴマークの入った缶バッチについて、市職員や観光関係者がつけているが市役所や各支所でも販売することで地元民への歓迎意識の向上の一助にはどうか。
	No. 3-2 視覚的にわかりやすい案内板・標識の整備【後期】	ピクトグラムなど、ユニバーサルデザインに基づいた観光案内板および観光標識の整備	●実施段階 ・今後も継続的に実施予定。 ・整備については完了しているが、案内板等の標示に変更があるため、次年度以降に修繕予定。	現状推進	●観光客に分りやすい案内が可能になれば歓迎。 ●視覚的にわかりやすい案内板は街歩きに欠かせない魅力のひとつとなり得る。 ●函館駅前の点字ブロックが一部剥がれている部分が見受けられる。 ●案内板や標識は見やすく・適切な場所に設置することが重要。古いもので見にくいものは早急に取り換えることが求められる。
	No. 3-3 観光情報の総合的な調整【通期】	プロモーションに用いる各種宣材のビジュアルイメージを総合的に調整する機能の検討	●実施段階 ・「冬に恋。函館」：当初は2019年度までの実施を想定しているが、当該年度の実施状況等を勘案し継続するかを検討したい。 ・その他：終期未定。当面の間は継続。	積極推進	●イベント開催について、市民向けの広報が不足していたように感じられる。より積極的な広報を通じて、市民を巻き込んだイベントにしていけたら良いのではないかと。 ●コペンハーゲンの観光終焉宣言にあるように、「The 観光客」がどれくらい函館にいるのかを想定すると、その答えはFITの増加が示す。そのため「はこぶら」を情報の発信装置(SNS等の情報の多方向からのシェアを前提とする)として、さらに発展させることが望ましい。また同時にDM機能にとって重要なビッグデータ等の情報の収集・分析装置としての機能を付与することが重要である。 ●「恋人」というテーマに関しては、若者を中心に「なぜ?」とか、「唐突すぎる」、「無理がある」などの意見が多々みられる。 ●従来の事業との重複が多い。 ●上述したが、ブランドとは何か、何の情報も誰に向けて発信するのか今一度議論しても良いのかと思う。 ●言葉が平凡すぎてインパクトがない。 ●プロモーション時の素材として必要。 ●冬期の函館観光の起爆剤になれば最高である。継続することで浸透していくものであるため継続が必要と考える。
No. 3-4 美しいまちづくりの推進【通期】	都市空間の形成に関連する施策を実施する際に、美しいまちづくり検討委員会から意見を聴取し、美しいまちづくりを推進	●廃止・変更 ・美しいまちづくりを推進していくための景観誘導については、現行の景観アドバイス制度、都市景観審議会などを活用することによって、実効性が確保できるため。	廃止・変更	●発展的解消ができていのであれば、他の委員会、審議会に委ねて良いと思う。	

施策	具体的取り組み および実施時期	概要	函館市所管部 局における進捗 状況評価	評価	当会議としての 意見
ン機能の充実に アートディレクシ ョン	No. 3-5 景観アドバイザーによる景観誘導のための技術的支援【通期】	建築物等の新築や屋外広告物の表示の際に助言を行うなど、良好な都市景観の形成を図るための景観アドバイザーによる技術的支援	●実施段階 ・終期が定まっていないため、今後も引き続き継続していく。	現状 推進	●地域社会として共通の価値観を明確に持つことが難しく、多様化が進む中で、ある程度の規範的で構造的、共創的なアドバイス、あるいはデザインの仕組みを構築することが課題である。(例えば、UDC のような)また公開性を高めることで、社会的な規範力を取り組むことにも期待したい。 ●景観を整えることはまちのブランドイメージ促進に貢献すると思われるので継続が望ましいと考える。
観光メニューの充実に	No. 4-1 ニューツーリズムの推進【通期】	本市ならではの体験型観光、産業観光、食、学び、癒し、医療、遊び、景観などを生かした、市民も観光客も共に楽しめるニューツーリズムの推進	●実施段階 ・「Goo-Route Hakodate」、サイクルツーリズム：終期未定。当面の間は継続。 ・各国の旅行会社・メディア招聘：今後も継続。	積極 推進	●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●体力や時間に応じたサイクリングコースの多様化、例えば片道コース(自転車は乗り捨て)の設定など、が望まれる。同コースをどさんこ(和種馬)との共用にすることで、自然の中で北海道開拓の歴史を体験でき、北海道に不足している新たな文化遺産の造成及び同保存に資する。とりわけ、欧米の観光客の誘致が見込める。(収量が減少している)イカのまちから、馬のまちへのコンセプトチェンジが可能である。 ●更なるメニュー構築が必要である。函館ならではのものを開発していく。 ●ニューツーリズムは定着にある程度時間が掛かると考えられるため、新ルートの開拓等工夫をしながら積極推進をしていくことが望ましいと考える。 ●サイクルツーリズムの件は、サイクリング競技者の増加に伴い、南北海道サイクルツーリズム推進協議会が立ち上がるも、補助の不採択等により行先が見えていない部分があるため、改めて内容を協議していく必要がある。 ●単なるスポット・グルメ観光には限界があるように思われる。体験型・サイクルツーリズムが入ることによりリピーターの呼び込みが可能になる。近隣市町村との連携も必要。
	No. 4-2 外国人観光客向けの観光メニューの作成【前期】	縄文文化交流センター、アイヌ文化、道の駅、漁村集落、恵山、温泉などの多様な観光資源を活用した、外国人観光客の誘致を目的とした観光メニューの作成	●実施段階 ・今後も継続。	現状 推進	●北の縄文は次の世界文化遺産候補ともいわれているので、もっと多くの外国人に触れてもらいたいと思う。 ●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●ニーズに合っているのであれば良いが、興味がないところに無理押ししても効果がないのでは。 ●外国人観光客はこれからも大きな存在で期待有。 ●最終的には外国人向け、日本人向けではなくターゲットと見込まれる日本人、外国人双方に喜ばれる観光メニューの作成が必要になると思うので、推進しつつも双方に訴求する内容の検討が望まれると思う。 ●縄文文化への関心が近年高まってきている。大船遺跡・垣ノ島遺跡等積極的にアピールされたい。課題は交通アクセス。中型のマイクロバス等運行の可能性はどうか。来年(2020年4月)民族共生象徴空間-ウボボイがオープンするのに伴いアイヌ文化への関心も高まってきている。北方民族資料館を活用した新しい観光メニューが求められる。
	No. 4-3 まちあるき観光の充実【前期】	既存のまちあるきイベント「てくてくはこだて」を基本とした、まちあるき観光メニューの充実	●実施段階 ・終期未定。当面の間は継続。	現状 推進	●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●電子化を進めると良いと思う。 ●必要と考慮する。 ●リピーターにも喜ばれるマップなので継続することが望ましいと思う。 ●MICE 誘致の経済効果は大きいものがある。積極的に推進すべきと考える。まちあるき 26 コースはそれぞれテーマが設定されており詳しい情報記載があるが、観光客からは種類が多すぎてどれを見るときいいのか迷うという指摘も多い。もう少し簡略化してもよいのでは。(廃止ではなく改定変更)

施策	具体的取り組みおよび実施時期	概要	函館市所管部局における進捗状況評価	評価	当会議としての意見
観光メニューの充実	No.4-4 修学旅行向け体験メニューの充実【前期】	体験メニューの提供施設などと連携した、修学旅行向け体験メニューの充実	●実施段階 ・当面継続。	現状推進	●北東北からも多くの修学旅行生が訪れているので、エリアの拡大が必要かもしれない。 ●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会（プラットフォーム）や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●道南への修学旅行誘致は大きな課題であり推進していく必要あり。 ●修学旅行は大切なマーケットであるが、少子化の影響等で今後発展が期待できるマーケットではないため、現状推進が好ましいと考える。
	No.4-5 夜の観光メニューづくり【通期】	気軽に飲み歩きができるなど、市民と観光客のふれあいが生まれる観光メニューづくり	●未着手 ・終期未定。当面の間は継続。		●青森・弘前・八戸のバルと協調したイベント開催について検討してもよいと思う。 ●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会（プラットフォーム）や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●民間主体なのがよいと思う。 ●まちを活性化し楽しみのある函館の夜を演出する。 ●上述のとおり夜間観光の必要性は高く、食だけでなくエンターテインメント性のあるコンテンツの充実も検討できるとなおいと思う。 ●湯の川バルの実施はどうか。 ●バルは地元民のみならず観光客にも積極的に広報するべきと考える。曜日の検討も必要か。
広域連携の推進	No.5-1 広域観光コンテンツの磨き上げ【前期】	道南や東北など近隣地域と連携した広域的視点による周遊型観光コンテンツの磨き上げ	●実施段階 ・（協議会の解散時期などは）終期未定。当面継続。（2018年度版の印刷物は発行済）	現状推進	●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会（プラットフォーム）や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●今後はコンテンツのPRについて検討し、コンテンツの浸透が必要と思う。
	No.5-2 広域連携による観光メニューの充実【通期】	道南や東北など近隣地域の多種多様な観光メニューを組み合わせた広域観光メニューの充実	●実施段階 ・青函圏みなみ北海道連絡会議：当面継続。 ・「Goo-Route Hakodate」：終期未定。当面の間は継続。		●SNSを併せて活用した方がよいと思う。 ●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会（プラットフォーム）や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●メニューを商品化するための工夫を検討（民間？）しつつ推進していくべきと考える。

施策	具体的取り組み および実施時期	概要	函館市所管部 局における進捗 状況評価	評価	当会議としての 意見
<p>秋冬の魅力の向上や発信</p>	<p>No.6-1 秋冬の魅力の 発掘と発信【前期】</p>	<p>外部専門家あるいは、道外住民、異なる国や地域の外国人をモニターとした秋冬の魅力の発掘と、雪への憧れや興味の強い東南アジア諸国など、誘致効果の高い国や地域へ向けた情報の発信</p>	<p>●実施段階 ・イベント、商談会、プロモーション：当面継続。 ・海外事業、函館市海外観光客誘致促進協議会：今後も継続。</p>	<p>積極 推進</p>	<p>●欧米向けのプロモーション、特にオーストラリアとニュージーランドは四季が逆であることをうまく生かせれば、集客できると思う。姉妹都市レイクマコーリーとの関係強化も一つの方法である。 ●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会（プラットフォーム）や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●函館市と民間で一致協力し函館に外国人観光客を誘致することはこれからの観光で函館が生き残るキーポイントである。 ●秋冬の観光客誘致は重要課題と考える。特に本施策は民間ではできない規模感のものであり、引き続き積極的な推進が望ましいと思う。 ●秋季後半（11月中旬）からは3月までの期間は外国クルーズ船寄港がなくなるため、特にアジアからのインバウンドへの積極的な函館の魅力をアピールする意味でも今後も積極的に推進すべきである。</p>
	<p>No.6-2 秋冬のイベントの見直し【前期】</p>	<p>秋冬の一層の観光客誘致や滞在日数の増加を図るため、秋冬に開催される既存イベントの見直し</p>	<p>●実施段階 ・引き続き既存イベントの見直しと新たなイベントの創出についての検討を並行して進める。</p>	<p>積極 推進</p>	<p>●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会（プラットフォーム）や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●光＝イルミネーションを利用するイベントか。もしそうなら、冬が長く寒さの厳しいヨーロッパでスタートし、世界中で冬の常識と化している。光の数や規模では大都市に負けるし、新たに立ち上げる事業としては、斬新さに欠ける。従来の光イベントとの棲み分けも不明確である。 ●函館 YEG 重点事業としてイベントに参画。 ●引き続き実施をお願いしたい。 ●ひかりをテーマにしたイベントは良いと思う。今後はイベントを経済に結び付ける施策検討も必要かと思う。 ●昨年度は地震の影響があったと思われるが、紅葉に関連するイベントについて近隣市町村とも連携して当地の宿泊者の増加は見込めないか。</p>

施策	具体的取り組みおよび実施時期	概要	函館市所管部局における進捗状況評価	評価	当会議としての意見
魅力ある食・土産品の創造および周知	No.7-1 (仮称)函館観光物産館の整備検討【前期】	首都圏において函館の食と観光情報を継続的に発信する拠点整備の検討	●廃止・変更 ・アンテナショップ事業:継続。	現状推進	●八重洲口のアンテナショップに行ったが、結構函館のものが取り扱われていて、買う人もいたので、2店目にも期待する。 ●アンテナショップとして世田谷奥沢を選んだ理由を理解できていないが、物産品を認知させるためにアンテナショップを活用することは継続した方が良いと思う。 ●首都圏から来函者呼び込みの手段としてのアンテナショップの意義は大きいと考える。
	No.7-2 函館朝市ひろば(旧渡島ドーム)を中心とした朝市における食の発信【通期】	市民と観光客の交流拠点として新たに整備した函館朝市ひろば(旧渡島ドーム)を中心とした朝市における地域産品や魅力ある食の発信	●実施段階 ・継続。	現状推進	●函館の顔である朝市のイメージアップにつながるので良い。 ●朝市の魅力を観光客だけでなく市民にもPRすることは消費促進にも役立つと思う。
	No.7-3 G-site(五稜郭グルメ村)の整備【前期】	地域コミュニティ施設と一体となった新たな飲食モールの整備	●事業完了 ・2015年度。	廃止・変更	●廃止・変更が適切ではないが、現状、本町エリアの賑わい創出、消費拡大に貢献するためには更なる工夫が必要な状態だと感じる。ただ、今後民間主導になるのか観光計画の施策として推進するのかが議論が必要だと思う。
	No.7-4 観光物産展の開催および参加【通期】	国内外の誘致・宣伝効果が期待できる市場における観光物産展の開催および参加	●実施段階 ・国内の物産展開催:継続。 ・遠東百貨:2019年度休止。 ・海外関係:今後も継続。	積極推進	●どの程度の売り上げ(経済効果)や誘致効果があったのかを明記した方がよいと思う。 ●農水産物の移輸出を念頭に置いた、関係機関との連携・計画的な推進が望ましい。 ●物産展が必要かどうかはわからない。 ●需要拡大に短期で影響をもたらすのは難しいが、こういった活動は継続していくことで観光客増加、観光消費拡大に貢献するので積極推進が望まれると考える。ただ、海外プロモーションは行先と目的をより明確化する必要があるかもしれない。 ●海外での観光物産展は函館を知ってもらえる絶好かつ貴重な機会である。当面積極的に推進すべきと考える。
	No.7-5 食と観光をテーマとしたイベントの開催【通期】	地域ならではの食と観光のPRを目的としたイベントの開催	●実施段階 ・FOOD フェスタ:当面の間継続。 ・イベント出店:当面の間は継続。 ・グルメサーカス:終期未定。当面の間は継続。 ・農水産物 PR:2019年3月事業完了。	積極推進	●去年は地震で中止。今後も期待あり。 ●グルメサーカス、フードフェスタともに集客力のあるイベントであるため積極推進が望ましいと考える。ただ、マンネリを防ぐ施策、参加者の滞在快適性の向上等、更なる改善の余地はあろうかと思う。
	No.7-6 幅広い食の周知【通期】	市民に支持されている隠れた飲食店や料理など幅広い食の周知	●実施段階 ・函館フェア:継続。 ・Web サイト:継続。 ・地域メニュー支援:継続。 ・料理等の周知・広報:2019年3月事業完了。	現状推進	●市民向けとしても価値があると思う。 ●現状では知名度が低い。 ●新しい函館の食を生み出す機会となるので継続期待する。 ●各種プロモーションと同様に食の周知も継続的に行うことがより高い効果をもたらすと思う。

施策	具体的取り組み および実施時期	概要	函館市所管部 局における進捗 状況評価	評価	当会議としての 意見
魅力ある食・土産品の創造 および周知	No.7-7 食・土産品創造 の促進【通期】	函館ならではの 食・土産品創造の 促進	●事業完了 ・土産品の創 造:2016年度。 ・販路開拓支 援、函館真昆 布、日本酒 PR: 2019年3月。	現状 推進	●高級路線を狙うなら、都心デパ地下、高級住宅街近辺で チェーン展開している高級スーパーマーケットが効果的の と思われる。(長年東京に住んでいたが、赴任3年目の函館 でおいしいと思っている食材＝函館ブランドを、東京にい た頃、何一つ知らなかった) (例 (三越)伊勢丹、成城石井、大丸、高島屋など) ●今回の事業で得たノウハウを継続的に活かし、アイテム を増やす努力も必要かと考える。 ●函館真昆布についてはまずは地元民に周知をしてもら うとともに、マスメディア等の有効活用をさらに検討すべき ではと考える。
	No.8-1 市民と観光客の 交流機会の創 出促進【通期】	市民活動や各種イ ベントなどを通じ た市民と観光客の 交流機会の創出 促進	●実施段階 ・終期末定。当 面の間は継続。	積極 推進	●「光」久しぶりのテーマである。やはり函館には「光」関連 のイベントが似合う。 ●前述したとおり、観光スタイルが滞在・体験型化に変容 してきたことから、今後はますます重要になってくる。単発 のイベントではなく、継続的な取り組みによる関係人口づく りを目指すことが重要。 ●光＝イルミネーションを利用するイベントか。もしそうなら、 冬が長く寒さの厳しいヨーロッパでスタートし、世界中で 冬の常識と化している。光の数や規模では大都市に負ける し、新たに立ち上げる事業としては、斬新さに欠ける。従 来の光イベントとの棲み分けも不明確である。 ●イベントとして必要。定着感もあり。 ●市民と観光客の交流機会創出は観光客の再訪を促すも のであり積極推進が望ましいと思う。
	No.8-2 歓送迎イベント の開催【通期】	クルーズ客船の寄 港時や、北海道新 幹線開業時におけ る市民参加による 歓迎イベントの開 催	●実施段階 ・新幹線イベ ント:2017年3月 完了。 ・クルーズ客船 イベント:終期末 定。	現状 推進	●クルーズ船の寄港数が急増していて、寄港数よりもイベ ント数が相当少ないように思う。廃止してまち中でのイベ ントを増やすべき。 ●観光客誘致には必要不可欠である。 ●特に学生、生徒による歓迎イベントは観光への意識付 け、お客様をお迎える原体験となり得る可能性もあり継 続が望ましいと考える。 ●クルーズ船の入港・出港の際にはデッキからその様子 を見る乗船客が非常に多い。イベント形態は様々だが、函 館の好印象を残してもらえらる良い機会である。
	No.8-3 道路緑化活動 の実施【通期】	歓迎ムードを盛り 上げることを目的 とした、官民一体 での沿道の植樹ま すの花植えや維 持管理の実施	●事業完了 ・今後も継続す る。	積極 推進	●まちの美化に大きく貢献。 ●道路緑化は観光客の動線を綺麗に維持するために必要 と考える。 ●まち中でみられる花と緑はそれだけで好印象を持ってもら える。町会諸団体に協力を仰ぎ継続してもらいたい。
No.8-4 環境美化に関す る活動の推進 【通期】	ボランティア制度 を活用した簡易清 掃や貼り紙の除去 など、きれいな街 並みの維持に関 する活動の推進	●事業完了 ・「春のクリーン・ グリーン作戦」 期間:2018年4 月1日(日)~4 月30日(月) ・「秋のクリーン 作戦」 期間:2018年10 月1日(月)~10 月31日(水)	積極 推進	●まちの美化に大きく貢献。 ●環境部主体でなくても諸団体の活動で同内容の取り組 みが継続できれば良いと思う。 ●まち中でみられる花と緑はそれだけで好印象を持ってもら える。町会諸団体に協力を仰ぎ継続してもらいたい。	

施策	具体的取り組みおよび実施時期	概要	函館市所管部局における進捗状況評価	評価	当会議としての意見
ホスピタリティ意識の醸成および顕在化	No.9-1 接遇研修等の充実【通期】	観光関連従事者を対象とした、時代のニーズに対応した接遇研修等の充実をはじめ、国・地域別の外国人旅行者ニーズに対応した各種研修等の充実	●実施段階 ・今後も継続。	現状推進	●セミナー参加者からの意見や要望をどのように反映させるのか、こうした評価シートにも明記してはどうか。 ●どんどん実施希望。推進希望。 ●今後も目的別、もしくは対象者別など様々な角度から研修の場を提供することは必要と考える。 ●観光関係者のみならず、外国語能力を活かせる市民の掘り起こしにつながる。
	No.9-2 国際交流の支援【前期】	国際交流関係事業への支援や小学生などを対象とした国際理解教育の推進	●実施段階 ・国際交流事業活動補助金：毎年度実施。 ・中学生海外派遣事業：2018年3月31日事業完了。	現状推進	●子供たちの感想文などをWEBにあげる等の取り組みが必要である。 ●今後重要となる関係人口づくりを目的として、事業のあり方のリニューアルが重要。 ●良い取り組みとは思いますが、人的交流を観光施策と捉えることの意義を再検討すべきように思う。
	No.9-3 まちあるき休憩ベンチの設置【前期】	まちあるき観光の利便性向上のほか、市民と観光客のふれあいの場となる「まちあるき休憩ベンチ」の設置	●事業完了 ・2014年度事業完了。	現状推進	●今後重要となる関係人口づくりを目的として、事業のあり方のリニューアルが重要。 ●ベンチ、ごみ箱、トイレなどの整備はまち歩きを推進するのであれば必要性が高まると思うので、今後、予算が確保できるのであれば推進すべきと考える。
	No.9-4 だれでも利用できる施設への改善【通期】	観光関連施設を対象とした段差の解消、スロープや手すりの設置、点字表記などの促進	●未着手 ・今後、緊急に整備等が必要な箇所があると認められた場合、対応を検討する。	現状推進	●LGBTQや障害者、異文化等をはじめとしたユニバーサル化という視点は重要。民間事業者や都市建設部との連携により展開して欲しい。 ●スロープや手すり、点字ブロックなどについて定期的な点検の継続は必要と思う。
	No.9-5 市民および観光事業者の意識啓発【通期】	講演会や市の広報紙などを通じた市民および観光事業者へのホスピタリティ意識向上の取り組み	●実施段階 ・今後も継続。	現状推進	●セミナー参加者からの意見や要望をどのように反映させるのか、こうした評価シートにも明記してはどうか。 ●5年程度を区切りとしてテーマ設定し、戦略的に函館にとっての観光のあり方を発展させることを目標とすることが重要。 ●No.9-1との統合が望ましい。 ●どんどん実施希望。推進希望。 ●意識啓発は即効性は低いものの意義があると思う。今後はテーマ性をもって継続する方が良いと思う。 ●観光関係者のみならず、外国語能力を活かせる市民の掘り起こしにつながる。
	No.9-6 観光客の安全・安心を守る体制の整備【前期】	災害等の非常時に、国内外の観光客の安全・安心を確保するための関係機関との協力体制および必要な方策の確立	●事業完了 ・2016年度事業完了 ※今後も災害等の非常時を想定し、効果的な協力体制の検討を必要に応じて行っていく。	現状推進	●災害対策等についてさらなる検討を進めて欲しい。 ●非常時の備えは必要。BOUの例もあり教訓として。 ●仕組みの確立だけでなく防災への取り組みを外に向けて発信していくことも今後は必要なかもしれないと考える。 ●インパウンドについての対応はどのようにしているか。

施策	具体的取り組み および実施時期	概要	函館市所管部 局における進捗 状況評価	評価	当会議としての 意見
人材の育成	No.10-1 観光ボランティア 団体の活動促進【通期】	新たなボランティアとの連携、観光ボランティア団体への助成、研修支援などによるボランティア活動の促進	●実施段階 ・本計画終了時まで引き続き観光ボランティアガイドの育成等、活動促進に努める。	現状推進	●前述したとおり、観光スタイルが滞在・体験型化に変容してきたことから、分かりやすい窓口、有償化、異文化交流や関係人口づくりといったことを前提としたあり方の再検討が重要。 ●個人型旅行への変化に対応に必要である。 ●有償ガイドとのすみわけ、役割分担を確認しながら推進していくことが良いと思う。 ●まちあるきボランティアガイドの高齢化がみられる。若手ガイドの育成は急務か。
	No.10-2 「函館歴史文化観光検定」の普及・検定合格者の活躍促進【通期】	多様な媒体を通じた「函館歴史文化観光検定」(はこだて検定)の普及および検定合格者の観光関連事業への参画、活躍の場の提供	●実施段階 ・本計画終了時まで引き続き本検定の普及等に努める。	現状推進	●上級よりも初級合格者に継続的な活躍の場を与えた方が良いと思う。 ●前述したとおり、観光スタイルが滞在・体験型化に変容してきたことから、観光や学校・社会教育、あるいは潜在化する地域資源の発掘等との連携強化が重要。 ●必要であると思慮する。 ●より多くの人が検定受験ができる環境整備も必要だと思う。
	No.10-3 有償観光ガイドの育成【後期】	観光客の満足度をより一層高めるため、各種ガイドのプロ化実現を目指した有償観光ガイドの育成	●実施段階 ・本計画終了時まで引き続き観光ガイドの育成等に努める。	現状推進	●公民連携を前提とした取り組みの支援、DMOとの連携が重要。 ●個人型旅行への変化に対応に必要である。 ●日本で有償ガイドという山岳リゾートなど限られている印象が個人的にはあるが、観光地の有償ガイドを育成し観光を生業とできる人を増やすことは大切だと思う。 ●育成方法およびその成果はどうなっているか。
	No.10-4 通訳ガイドの育成【前期】	外国人観光客へのきめ細やかな対応が可能な通訳ガイドの育成	●実施段階 ・終期未定。	現状推進	●公民連携を前提とした取り組みの支援、DMOとの連携が重要。 ●存在すると非常に活用できるので。 ●観光地の有償ガイドの一つの条件として国籍問わずガイドができることが望ましいと思うので上記有償ガイドの育成に含めて良いと考える。 ●育成方法とは。
市内における観光情報の充実	No.11-1 多言語表記・対応の充実【前期】	観光情報の多言語表記や、函館市公式観光情報サイト「はこぶら」内の外国語サイトの充実、観光案内所における多言語、多文化への対応	●実施段階 ・観光説明版：2019年度に盤面の貼り替えに合わせ、QRコードを活用した多言語化整備を行う。 ・外国人コンタクトセンター：今後も継続。	積極推進	●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●QRコード化については、No.2-2と重複か。 ●外国人観光客はこれからも大きな存在で期待有。 ●コンタクトセンターの存在自体をPRすることも必要かと思う。また、時間帯によっては対応が遅れることもあろうかと思うので運営の改善方法も議論した方が良いと思う。 ●この数年充実してきているが、外国人観光客からは設定箇所や多言語対応ではまだまだ十分ではないという指摘がある。今後も積極的に推進すべきと考える。
	No.11-2 カード利用可能情報の提供【前期】	国内外で発行されている電子マネーやクレジットカードが利用可能な施設やATM情報などの提供	●実施段階 ・今後も継続。	積極推進	●銀聯など、中国圏で使用可能な電子マネー対応店舗を増やすべき。 ●支払い決済手段の多様化(=キャッシュレス)への対応が喫緊の課題である。 ●カード・両替情報は外国人観光客から尋ねられる頻度の高い情報。可能施設数の増加(特に休日)が求められている。
	No.11-3 テーマ別観光情報の発信【通期】	秋冬観光、滞在観光、国・地域別、観光客、ビジネス客、富裕層、高齢世代などテーマ別の観光情報発信の充実	●実施段階 ・「はこぶら」：当面継続。 ・「函館イベントガイド」：終期未定。当面の間は継続。	積極推進	●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●利用者数、アクセス数などの統計データが必要。結果次第では廃止。 ●「はこぶら」は観光情報サイトとして他地域のものと比しても、とても充実していると思う。SNSの時代とはいえ基幹サイトが充実していることは必要だと思うので積極的継続を望む。 ●「はこぶら」は日本人観光客のみならず外国人観光客にとっても非常に有益なサイト。テーマ別情報内容は利用者には有り難い。さらなる充実を期待する。

施策	具体的取り組みおよび実施時期	概要	函館市所管部局における進捗状況評価	評価	当会議としての意見
市内における観光情報の充実	No.11-4 Wi-Fiの推進【前期】	交通拠点、観光施設、商業施設などのWi-Fi利用環境の整備と利用可能箇所の情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ●実施段階 ・今後も継続。 ・他部局との連携が必要のため未着手。 	積極推進	<ul style="list-style-type: none"> ●まだまだ使えるエリアが限られている。より広範囲で使えるようにしていく必要がある。 ●とにかく無料で簡単に利用可能なWi-Fiを張り巡らすことが一番効果的だと思う。そうすれば、様々なコンテンツの電子化やSNSによる口コミ戦略との相乗効果も生まれて、既存のコンテンツももっと有効活用できると思う。 ●必要不可欠事項。 ●災害時対応は最新情報を反映したものにすることも定期的にアップデートすべきと思うので積極推進が望ましいと考える。 ●非常に使いにくい。(接続までの手間がかかる) ●外国人観光客にとってFree-Wi-Fiの充実度は重要な訪問地評価の一つ。利便性ととも安全性も含めての推進が必要。
	No.11-5 観光情報の提供場所の拡大【前期】	観光情報入手できる場所の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●実施段階 ・今後も継続的に実施予定。 	現状推進	<ul style="list-style-type: none"> ●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●繁忙期に対応窓口を増やすことは、観光客の利便性も高まると思う。 ●現在の五稜郭タワーでの窓口はGW期間と夏のお盆期間に実施されているが、日本人観光客のみを対象にしている。外国人観光客へも最低英語での対応が完璧なスタッフもおくべきである。またこの事業は新年度の早い段階で日程等を各団体へ提示することも求められる。昨年度函館国際観光コンベンション協会にも申し入れをしているが今年度はGW期間でまだ実現をみていない。早急に対応をすべきと考える。
	No.11-6 (仮称)観光センターの整備検討【前期】	函館観光のワンストップサービス機能を持った拠点施設の整備について検討	<ul style="list-style-type: none"> ●検討段階 ・引き続き、地域の官民の関係者との役割分担の在り方などを踏まえて、効果的な施設整備について検討を重ねていく 	現状推進	<ul style="list-style-type: none"> ●DMO設置との絡みもあり、しっかりとした議論の後に設置すべき。 ●過疎化や札幌への一極集中が極端に進む函館の現状において、観光を地域再生のためにいかに活用するかが重要となっている。単なる観光案内所やプロモーション組織ではなく、観光まちづくりのためのDM機能をもつ機関を設置することが重要。 ●現存する観光関連の団体、施設等の整理・統合が先。(複雑多岐にわたり、重複業務目立つ) ●既存のスキームに捉われず、今後の函館観光がどうあるべきか、あるいは持続可能社会の実現のための観光業であるために何をすべきかしっかり議論をして推進すべきと考える。 ●今後施設を構えてまで本当に必要なのかを検討していただきたい。
	No.11-7 函館市まちかど観光案内所の充実【前期】	函館市まちかど観光案内所の周知と機能の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●実施段階 ・今後も継続的に実施予定。 	現状推進	<ul style="list-style-type: none"> ●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●取り組み自体は素晴らしく、今後はコンビニ、レンタカー会社以外でもさらに場所を増やした方が良いと思う。

施策	具体的取り組みおよび実施時期	概要	函館市所管部局における進捗状況評価	評価	当会議としての意見
市内における観光情報の充実	No.11-8 バス、路面電車における観光情報の提供【前期】	バス・路面電車の停留所における観光情報の発信および車内でのアナウンスを通じた観光情報の提供	●実施段階 ・「おいしい函館」:継続。 ・「函館イベントガイド」:終期未定。随時実施。	積極推進	●前述したとおり、観光スタイルが滞在・体験型化に変容してきたことから、今後は観光客向けについても、函館の公共交通のあり方を検討する一環として取り組むことが重要。 ●新しいハードウェアを導入するよりは、十分なWi-Fi環境と、タイムリーに情報にアクセスできるポータルサイト(「はこぶら」のような)の充実化を図るのが効果的だし、今後の継続的な発展(コンテンツの更新や多言語対応など)にもつながると思う。 ●外国人観光客はこれからも大きな存在で期待有。 ●音声案内は多言語化が難しいように思う。車内での案内は行先、運賃など必要なものを優先で観光情報などは緊急性の高いものを除き、他の手段を活用することで対応できると思う。 ●繁忙期の五稜郭タワー周辺の交通渋滞が多く、路線バスも大幅に遅延が発生している。 ●市電・函館バス内の外国語での車内放送はかなり充実してきているが、空港と市中心部を結ぶ路線では2019年2月時点で対応がされていないバス会社もある。外国人観光客には不親切に思われる。このあたり会社によって差がないような対応も必要。
多様な媒体を通じた情報の発信	No.12-1 電子媒体を通じた情報発信【前期】	「はこぶら」スマートフォン用サイトや「観光等案内情報端末」の運用など電子媒体による情報発信の充実	●実施段階 ・「おいしい函館」:継続。 ・「函館イベントガイド」:終期未定。随時実施。	現状推進	●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●必ずしも新しいものを増やすのではなく、ポータルサイトをはっきりさせる方が良いように思う。 ●これからも力を入れていただきたい案件。 ●情報はアップデートと継続が必要だと思うので、現状推進が望ましいと思う。 ●実際に現地を歩いて観光する際にスマートフォン等機器は手放せないもので、これらユーザーに使いやすいサイトを維持していくことが求められる。
	No.12-2 紙媒体を通じた情報発信【通期】	新聞、雑誌など紙媒体への情報発信の充実	●実施段階 ・当面継続。 ・未定。随時実施。	現状推進	●観光誘致のため必要である。 ●紙媒体よりネット上の情報の方が優位性が高まっているが、紙媒体の情報は閲覧性、回覧性があり推進する価値はあると思う。 ●地元民を呼び込むためには新聞雑誌による情報周知は有効である。
	No.12-3 放送媒体を通じた情報発信【通期】	テレビ、ラジオなど放送媒体への情報発信の充実	●実施段階 ・市内FM放送、テレビ、首都圏イベント等による情報発信:当面継続。 ・はこだてグルメサーカス PR:未定。随時実施。	現状推進	●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●イベント情報などに効果有。花火大会の有無などにも有効活用。 ●メディアへの露出はイベントPRに欠かせないと思うので現状推進が好ましいと考える。 ●マスメディアへの情報発信は今後も積極的に推進が必要。(はこだてグルメサーカスの開催場所の確保はどうなるのか)
	No.12-4 宿泊施設を通じた情報発信【通期】	滞在客や再来訪客などタイプ別観光客のニーズを想定した宿泊施設による情報発信の充実	●実施段階 ・宿泊施設へのパンフレット等設置:当面継続。 ・「函館イベントガイド」関連:未定。当面の間は継続。	現状推進	●インバウンド向けの内容も情報発信した方が良いと思う。 ●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●観光客に認知していただく上で必要。 ●ホテルでイベント情報等を確認するお客様は多いので、現状推進が望ましいと思う。

施策	具体的取り組みおよび実施時期	概要	函館市所管部局における進捗状況評価	評価	当会議としての意見
交通アクセス環境の整備	No.13-1 高速交通ネットワークの整備促進【前期】	新函館駅(仮称)および函館空港にアクセスする函館新外環状道路など高速交通ネットワークの整備促進	<ul style="list-style-type: none"> ●実施段階<完了予定時期> ・函館新外環状道路 赤川 IC～函館空港 IC: 2020年度。 ・函館江差自動車道 北斗茂辺地 IC～木古内 IC(仮称): 2021年度。 ・北海道縦貫自動車道 大沼公園 IC～七飯 IC(仮称): 未定。 ・国道 278 号尾札部道路 豊崎～大船間: 未定。 ・国等に対し、上記路線ほか関係路線の整備促進等にかかる要望活動: 事業完了まで継続。 	積極推進	<ul style="list-style-type: none"> ●国や政府へのより一層の働きかけが求められていると思う。 ●早期実現に向け推進して頂きたい。 ●交通インフラの整備は観光促進に必要なと思われるので積極推進が望ましいと考える。
	No.13-2 駐車場情報の提供【前期】	自家用車やレンタカー利用者に対する駐車場情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●実施段階 ・今後も駐車状況や渋滞状況を確認しながら、チラシのリニューアルや効果的な渋滞緩和対策を関係企業や団体等と協議し、実施継続していく。 	積極推進	<ul style="list-style-type: none"> ●視覚化・電子化が遅れている。スマートフォンに対応したわかりやすい情報提供が必要である。 ●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●観光誘致のため必要である。 ●渋滞緩和対策は必要であるため、ちらしが今後も適正な手段であるかは検討しつつも継続が好ましいと考える。 ●近年、函館地区においてもマイカーに加え、レンタカー利用者が増えている。
	No.13-3 バスの利便性の向上【前期】	バス路線網の再編や停留所上屋の整備および利用しやすい料金体系の導入検討	<ul style="list-style-type: none"> ●検討段階 ・2021年より路線網の再編を実施予定。 	積極推進	<ul style="list-style-type: none"> ●4月からは路線番号が一新された。 ●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●二次交通インフラの整備は観光客の利便性のみならず、利用者全てにとって有益と思われるので、積極的推進が望ましいと考える。 ●ターミナル(乗り場)の整理は必須であり、五稜郭、湯の川など主要乗り換え拠点箇所を集約するなど、整備の必要がある。 ●函館山山頂への登山バスは通常午後からの運行であるが、ロープウェイ点検期間中の運行をバス会社と協議し午前中からすることはできないのか。この期間はタクシー・マイカーと歩いてしかあがれないのは観光資源が有効活用されていないように思われるが。

施策	具体的取り組み および実施時期	概要	函館市所管部 局における進捗 状況評価	評価	当会議としての 意見
交通アクセス環境の整備	No.13-4 路面電車の利便性の向上【通期】	ICカード導入や均一料金制導入の検討のほか、デザイン性が高く利用しやすい電停の整備	●事業完了 ・「ICAS nimoca」導入:2018年3月完了。 ○電車停留場改築 ・函館駅前:2014年度。 ・五稜郭公園前:2015年度。 ・中央病院前:2016年度。 ・松風町、千代台:2017年度。	現状推進	●ICASnimoca カードが使える店舗数を増やし、もっと利便性を向上させるべき。 ●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●函館の名物の一つの市電は活用して行きたい。 ●道外観光客から利便性が高いという声を聞くので導入は成果があったと思われる。 ●函館駅前の十字街方面の停留所では時折安全地帯からはみ出て待っている場面が見られ、電車の進入時に危ない場面もある。乗車位置での待ち方についての方策が必要と感じる。
	No.13-5 タクシーの利便性の向上【通期】	乗り合いタクシーや定額タクシーなど、観光客にとって利用しやすい運行形態および料金の検討	●事業完了 ・2016年3月完了	現状推進	●前述したとおり、このような取り組みについては公民連携で取り組むことが望ましい。そのため、関連する協議会(プラットフォーム)や事業について、行政としてどれくらい積極的に役割を果たせるかという視点で望むことが重要である。 ●定額タクシーは観光客には親切な仕組み。 ●ライナーと比較し割高という印象を持たれがちではあるものの、移動手段の選択肢のひとつとして現状推進が好ましいと思う。 ●高齢化時代に入っており、いわゆる福祉車両のタクシーをさらに増やしてもらいたい。
空港・港湾機能の充実	No.14-1 国際航空路線の拡充促進【通期】	新規路線の開設促進やチャーター便の運航拡大、新たな航空会社の参入促進など国際航空路線の拡充促進	●実施段階 ・未定。	積極推進	●早急に台湾便以外の国際線の復活やLCCの復活を目指すべき。 ●アウトバウンドツーリズムの推進。 ●プライベートジェット客の取り込み。 ●成果がなさすぎる。 ●これは増やすのは当然のこと。廃線は函館の存在を否定すること。 ●国際線の拡充促進は今後の函館観光に欠かせないと思う。できることに限りはあるかもしれないが、積極推進が望まれると考える。
	No.14-2 国内航空路線の拡充促進【通期】	新規路線の開設促進、既存路線の充実、休止路線の再開促進、新たな航空会社の参入促進など国内航空路線の拡充促進	●事業完了 ・2019年3月31日。	積極推進	●成田・関空発着のLCCを改めて誘致すべき。 ●路線を増やしていただきたい。 ●国際線と同様に国内線の拡充促進も必要と思われるため、積極推進が望まれると考える。
	No.14-3 大型旅客船ふ頭の整備推進【後期】	観光客と市民の交流拠点、賑わいと魅力ある港湾空間となるような大型旅客船ふ頭の整備促進(若松地区)	●実施段階 ・2020年代前半完了予定。	積極推進	●ふ頭だけでは不十分である。一日も早くターミナルビルを建設してほしいと思う。 ●若松ふ頭近辺にターミナル・一次滞在施設の整備、およびベイエリアまでの遊歩道整備(ウッドデッキ整備や屋台やコンテナハウス等の仮設店舗誘致のための施設整備)があるとよい。 ●大型船も着岸できるようになる予定と聞いている。 ●クルーズ船の乗り入れによる経済効果の検証は必要だと思うが、ふ頭の整備推進は必要だと思う。 ●2019年4月以降、若松ふ頭に寄港する外国クルーズ船乗船客からの評判はすこぶる高い。更に近い将来大型船の寄港が可能になるようなふ頭整備が求められる。
	No.14-4 親水空間の整備推進【後期】	港や海に接することができる港湾空間の整備および歴史的港湾施設の保存修復(末広地区の整備検討)	●実施段階 ・2020年度完了予定。	積極推進	●若松ふ頭近辺にターミナル・一次滞在施設の整備、およびベイエリアまでの遊歩道整備(ウッドデッキ整備や屋台やコンテナハウス等の仮設店舗誘致のための施設整備)があるとよい。 ●護岸の緑地整備は景観上、安全上必要と思われるので積極推進が望ましいと考える。

施策	具体的取り組み および実施時期	概要	函館市所管部 局における進捗 状況評価	評価	当会議としての 意見
空港・港湾機能の充実	No.14-5 旧函館ドック跡地の整備推進【前期】	市民や観光客が「海」と「科学」にふれ合うことができる、水産海洋分野の新しい形の研究施設の整備推進	●実施段階 ・2014年6月に函館市国際水産・海洋総合研究センターの運用開始。 ・2022年度完了予定(弁天地区の緑地整備)。	現状推進	●観光と結びつけることに若干の違和感がある。修学旅行でのコースとして取り入れられているのであれば良いが。 ●景観を残しつつ整備必要である。 ●海洋センターの認知度も上がり科学祭でも使われることにより水産海洋分野を観光資源とすべく役割を果たしていると考えられるので現状推進が望ましいと思われる。 ●函館市民に施設自体の存在を知らない割合の方が多く、積極的に利用促進などアナウンスしていく必要がある。
周遊性の向上	No.15-1 周遊チケット等の充実【通期】	はこだてチケットやはこだて旅するパスポートなど、周遊チケットの充実と継続的販売	●実施段階 ・当面継続。	現状推進	●広域圏の地域情報に関する共同での受発信が重要。(特別なことでなくてもよく、どこに行っても同様の情報が手に入ること) ●チケット内容の見直し等、利便性を高めるための協議を定期的実施しつつ、観光客の周遊性を向上させる施策として現状推進が好ましいと思う。 ●函館近郊を周遊するツールとして一定の効果があったと認識している。1日券の販売を開始してから更に販売増につながっていることから継続する必要がある。
	No.15-2 周遊促進イベントの実施【後期】	渡島東部の隠れた魅力を巡るスタンプラリーの実施など、周遊促進イベントの実施	●検討段階 ・自然景観や縄文遺跡群などの観光資源を活用した周遊促進策について今後検討したい。	現状推進	●広域圏の地域情報に関する共同での受発信が重要。(特別なことでなくてもよく、どこに行っても同様の情報が手に入ること) ●情報交換にとどまらず、今後は民間を交えて具体的なイベント開催に向けた協議ができると良いと思う。 ●来函されるお客様のニーズに即したものであれば。
	No.15-3 移動支援手段の充実【前期】	電動アシスト付き自転車レンタルサービスの充実や超小型電気自動車などの新たな移動支援手段導入の検討	●事業完了 ・2017年4月29日(北海道新幹線新函館開業対策推進機構、民間事業における事業開始日)。	現状推進	●国内外の自転車メーカーとの連携・協力事業化も視野に入れるべき。 ●自転車を含め、FITに対応した二次交通手段について、公民連携で検討し、早急に整備を進めることが重要。 ●事業内容は函館観光に必要なと思うが、事業として採算が取れないのであれば別のビジネスモデルで継承するなど工夫が必要だと考える。 ●レンタル自転車の需要が増加していることから継続が望ましい。 ●レンタサイクルについて、自転車で観光地をまわるツアーが若中年層を中心に全国的に人気が出てきている。

施策	具体的取り組み および実施時期	概要	函館市所管部 局における進捗 状況評価	評価	当会議としての 意見
MICE受け入れの強化	No.16-1 新たなMICE受け入れ施設の整備【前期】	函館アリーナや函館フットボールパークなど、スポーツイベント、コンベンション、会議等に対応できる新たな施設の整備・活用	●実施段階 ・継続実施。 ・整備活用については、引き続き検討実施する。	積極推進	●大森海岸等の教育観光やインセンティブツアーに対応可能で潜在化する空間や施設がまだまだ多く残されている。これらの価値を MICE の視点から再発見し、戦略的に活用方策を立てて、公民連携で活用・整備することが重要。 ●移動手段が十分に用意できるのであれば、海洋センターや未来大も活用できると良いと思う。 ●大きな学会などの誘致に期待する。 ●MICE 誘致にはユニークベニューの提供が必要だと考える。日本国内は歴史的建造物などを MICE で活用することに積極的になれない場所が多いようなので、先んじて複数のユニークベニューで MICE を受け入れられるようにするためにも積極推進が望ましいと考える。 ●MICE 誘致の経済効果は大きいものがある。積極的に推進すべきと考える。
	No.16-2 割引パスポートの充実【前期】	MICE参加者が受けられる割引対象施設の拡大や割引内容の向上など、割引パスポートの充実	●事業完了 ・2018年5月リニューアル完了。	現状推進	●割引パスポートを利用する層の確認と、内容の見直しは定期的実施すべきと考える。 ●MICE に参加される人達に対して本当に必要なか。正規料金でも良いのではないか。 ●今後も使用施設の参加者に対しての観光施設の割引等の提供は継続すべきと考える。
	No.16-3 MICE対応窓口機能の強化【前期】	MICE主催者からの各種要望に対応できる窓口機能の充実	●実施段階 ・継続実施。	積極推進	●大きな学会などの誘致に期待する。 ●MICE は対応すべき事柄が多岐にわたるので窓口機能がしっかりしていることは望ましいと思う。 ●「臨時観光窓口」の設置については、特に大人数の会議の際に既存の観光ガイド団体に依頼してはどうか。日程等が事前にわかれば対応はしやすいと思われる。親切な情報提供ができると思われる。
	No.16-4 エクスカージョンの充実【前期】	縄文文化や豊かな自然景観に恵まれた渡島東部4地域などを巡るエクスカージョンコースの創出	●実施段階 ・継続実施。	積極推進	●他の事業との差別化が必要。 ●MICE 誘致にはユニークベニューであることも大切だが、前後のプログラムの充実も欠かせないといわれており、会場のPRだけでなくまちの魅力も併せてPRすることが求められると思う。 ●函館のみならず近隣市町村を含めた観光コースの創出はリピーター増加につながると思われる。縄文文化についても外国人観光客には近年全国的に感心が高まりつつある。地元のガイド養成も求められる。
	No.16-5 宿泊施設による受け入れ体制の強化【通期】	MICE主催者および参加者特有の様々な個別ニーズに対応できる受け入れ体制の強化促進	●実施段階 ・継続実施。	現状推進	●企業努力としては必要不可欠だが、市の事業として行うべき理由が不明。 ●本来であれば宿泊施設が積極的に打ち合わせを行うべきであり、観光基本計画において実施するより各宿泊施設が働きかけ打ち合わせができている状態を作ることが望ましいと思う。
	No.16-6 ユニークベニューの活用【後期】	函館山ロープウェイ展望台や旧函館区公会堂など、函館ならではの特別な場所・施設を活用したMICEの開催促進	●実施段階 ・継続実施。	現状推進	●大森海岸等の教育観光やインセンティブツアーに対応可能で潜在化する空間や施設がまだまだ多く残されている。これらの価値を MICE の視点から再発見し、戦略的に活用方策を立てて、公民連携で活用・整備することが重要。 ●大きな学会などの誘致に期待する。 ●重複するが、ユニークベニューの活用は今後の MICE 誘致には欠かせない。

施策	具体的取り組みおよび実施時期	概要	函館市所管部局における進捗状況評価	評価	当会議としての意見
祝祭都市に向けた取組み	No.17-1 各種イベントの観光資源化【通期】	はこだて国際民俗芸術祭、函館野外劇、はこだて国際科学祭、バル街のほか各種周年事業など、函館でしか味わえない、または函館発祥のイベントの宣伝を強化	●実施段階 ・はこだて国際科学祭:事業終了時期は未定。 ・はこだて西部地区バル街:継続。 ・「函館イベントガイド」関係:終期未定。当面の間は継続。 ・はこだて国際民族芸術祭:事業完了予定時期は団体の申請により検討する。	積極推進	●イベント都市という売り込みは世界的には恥ずかしいので、必要であれば民間に任せ方がよい。あるいは、生活者目線(関係人口づくり)での取り組みに転換する。 ●イベントを増やし継続し認知いただくことで集客に繋ぐ。 ●各種イベントについて情報共有、発信、集客等のやり方を共有できるプラットフォームづくり、イベントが観光資源となる過程で人と人がつながる仕組みづくり、啓蒙活動なども視野にいれた議論ができるとういと思う。 ●「国際民族芸術祭」、「函館野外劇」、「西部地区バル街」は、地元民のみならず徐々に観光客にも知られるようになってきている。今後も積極的に推進すべきと考える。なお、バルの開催時期についてはこれまで日曜開催となっているが、土曜開催することで観光宿泊者数を増やせるのではないかと。
	No.17-2 各種イベントの支援【通期】	各種イベントに対する支援の実施	●実施段階 ・コンベンション開催補助金:1件 2019年3月31日 30万円支給。 ・フェスティバルタウンミーティング:終期未定。当面の間は継続。	積極推進	●イベント都市という売り込みは世界的には恥ずかしいので、必要であれば民間に任せ方がよい。あるいは、生活者目線(関係人口づくり)での取り組みに転換する。 ●広報やバスの手配などで大変お世話になった。交付金などは、双方の手間のことを考えると、あまり必要ではないかと考える。引き続き、情報や関係者とのネットワークにおいてご支援いただけると大変ありがたい。 ●予算を組んでいただきたい。 ●上記と重複するが、市民、行政、民間、団体など広くイベントに係わる人達が集まりやすい環境づくりを支援することは必要だと考えるので積極推進が望ましいと思う。 ●一定レベルのイベントの質を維持するためには補助は必要と考えるが、その効果については慎重に分析する必要がある。
誘致宣伝活動の実施	No.18-1 国内外での誘致宣伝活動の実施【通期】	北海道新幹線開業により今後集客が期待できる首都圏・北関東・東北のほか、東南アジア地域を中心とした海外での誘致宣伝活動の実施	●実施段階 ・国内の誘致宣伝活動:当面継続。 ・海外の誘致宣伝活動:今後も継続。	積極推進	●経費効果の定量的分析を行い、効果の「見える化」を図るべき。 ●トッププロモーションをしたら必ず結果を残すことが大事である。お祭りではないのでいけば良いということではないと考える。必ず実を实らせることが必要である。 ●国内外を問わず誘致活動は継続してこそ意義があり、今後も積極的推進が望ましいと考える。 ●ネット社会と言われる時代になったが、加えて実際の実演・実物を見たり、触れたり・食べたりする機会の効果は大きい。今後も可能な限り積極的に推進すべきと考える。
	No.18-2 MICEの誘致宣伝活動の実施【通期】	MICE開催予定の企業・団体への個別誘致をはじめとした積極的な誘致宣伝活動の実施	●実施段階 ・継続実施。	積極推進	●No.16-1との関係は、誘致PRと、受け入れ体制の連携が望ましい。 ●プロモーションをしたら必ず結果を残すことが大事である。お祭りではないのでいけば良いということではないと考える。必ず実を实らせることが必要である。 ●大型コンベンションの誘致は、近隣宿泊施設及び飲食店に対する訴求効果が見込まれるので積極推進が望ましいと考える。 ●ネット社会と言われる時代になったが、加えて実際の実演・実物を見たり、触れたり・食べたりする機会の効果は大きい。今後も可能な限り積極的に推進すべきと考える。 ●MICE誘致の経済効果は大きいものがある。積極的に推進すべきと考える。
	No.18-3 修学旅行の誘致宣伝活動の実施【通期】	市内宿泊施設、教育・文化施設、体験施設などとの連携および近隣地域との広域連携を生かした修学旅行の誘致宣伝活動の実施	●実施段階 ・当面継続。	積極推進	●函館の何を見せるか。昨年企画部で作成した小学生向けDVDを配付するのはどうか。 ●プロモーションをしたら必ず結果を残すことが大事である。お祭りではないのでいけば良いということではないと考える。必ず実を实らせることが必要である。 ●大型宿泊施設においては重要マーケットであるため、積極推進が望ましいと思う。

施策	具体的取り組み および実施時期	概要	函館市所管部 局における進捗 状況評価	評価	当会議としての 意見
誘致宣伝活動の実施	No.18-4 寄港および就航 要請活動の実施【通期】	クルーズ客船運航 会社に対する寄港 要請や新規航空 会社等に対する就 航要請活動の実 施	●実施段階 ・航空会社 関 連：今後も継 続。 ・クルーズ客船 誘致：未定。	積極 推進	●寄港数の急増で港湾機能が麻痺しないように工夫が必要。 ●定期航路便は切らせないで欲しい。 ●継続性のある営業活動の効果が出ており、なかなか思った通りの展開を見せないこともあるかもしれないが、特にアジア圏においては継続的な関係構築が必要だと思われるので積極推進が望ましいと考える。
	No.18-5 「はこだてフィル ムコミッション」 の活用【通期】	「はこだてフィルム コミッション」の おすすりロケ地な どの一層の充実や、 過去に撮影された 映画の活用	●実施段階 ・終期未定。当 面の間は継続。	積極 推進	●Webの内容、英語での案内を見直しはどうか。 ●はこだてフィルムコミッションの活用は必要と思う。ただ、配布物については設置、配布にとどまっている感があるので、積極的活用方法について討議すべきと考える。 ●当地を訪れる観光客の中にはロケ地に感心を持つ人達も多い。
長期戦略形成へ 向けた取り組み	No.19-1 観光アンケート 調査の実施【通 期】	観光アンケート調 査の継続実施	●実施段階 ・本計画終了時 まで、引き続き 今後の観光施 策に活用でき るような調査を 実施する。	積極 推進	●DM機能を構築することを目的に調査内容・分析方法について、あり方や内容について再度見直しをする。また公民連携による分析、および分析情報の共有を行う。必要に応じて、受益者負担のあり方を検討する。また、箱館会等が収集・ストックする情報についても、ビッグデータや経年データとしての価値が見込まれるため、積極的な共有や活用を検討する。 ●アンケートは必要である。 ●各種調査においては、実施後どうするかということが、より重要と考える。結果を踏まえて観光基本計画とも照らし合わせつつ、変化の激しいマーケットのなかで経済活動に結び付くアクションを策定し、実行できるようにしていくことが必要と考える。 ●アンケートにより当地観光のプラス面、改善すべき課題も見えてくる個人観光客への調査は工夫を要する。
	No.19-2 外国人旅行者二 ーズ調査の実 施【通期】	外国人旅行者の 国・地域別の魅力 ある観光資源の把 握やニーズの顕 在化、“売り”の分 析		積極 推進	●DM機能を構築することを目的に調査内容・分析方法について、あり方や内容について再度見直しをする。また公民連携による分析、および分析情報の共有を行う。必要に応じて、受益者負担のあり方を検討する。また、箱館会等が収集・ストックする情報についても、ビッグデータや経年データとしての価値が見込まれるため、積極的な共有や活用を検討する。
	No.19-3 観光客満足度 調査の実施【通 期】	観光客の満足した 点、不満だった点 に関する調査を実 施		積極 推進	●各種調査においては、実施後どうするかということが、より重要と考える。結果を踏まえて観光基本計画とも照らし合わせつつ、変化の激しいマーケットのなかで経済活動に結び付くアクションを策定し、実行できるようにしていくことが必要と考える。 ●アンケートにより当地観光のプラス面、改善すべき課題も見えてくる個人観光客への調査は工夫を要する。
	No.19-4 その他関連調査 実施の検討【通 期】	観光動向の把握 に必要と思われる 各種関連調査の 新規実施の検討	●実施段階 ・本計画終了時 まで引き続き検 討を行う。	積極 推進	●定量的分析で得られた成果を、次の施策に反映させていく必要がある。 ●DM機能を構築することを目的に調査内容・分析方法について、あり方や内容について再度見直しをする。また公民連携による分析、および分析情報の共有を行う。必要に応じて、受益者負担のあり方を検討する。また、箱館会等が収集・ストックする情報についても、ビッグデータや経年データとしての価値が見込まれるため、積極的な共有や活用を検討する。 ●各種調査においては、実施後どうするかということが、より重要と考える。結果を踏まえて観光基本計画とも照らし合わせつつ、変化の激しいマーケットのなかで経済活動に結び付くアクションを策定し、実行できるようにしていくことが必要と考える。

施策	具体的取り組み および実施時期	概要	函館市所管部 局における進捗 状況評価	評価	当会議としての 意見
長期戦略形成へ向けた取り組み	No.19-5 観光アドバイザー 一会議の設置 【通期】	有識者、観光関連 事業者等で構成さ れる観光アドバイ ザー会議による進 捗状況の管理	●実施段階 ・2019年度は本 会議で情報共有 したポスト新幹 線時代における 函館観光の課 題を踏まえ、本 計画の中間評 価を行うととも に、必要に応じ 計画内容の見 直しを行う。	積極 推進	●中間評価の結果を次の施策に反映させていく年度である。 ●函館が抱える課題やテーマに即したゲストスピーカーを招聘しても良いのではないかと。 ●設置自体に異論はないが、「事前に議題を決め、議論し、何らかの結論を出す」という生産的な形になっていない。不安要素の並べ立て、業務成果報告など、各自の意見を述べて終わってしまうことが多い。 ●進捗状況に記載されているとおり、2014年に策定された観光基本計画がどのように進捗しているか評価し、必要に応じて変更し、さらには市内観光従事者と本計画を共有できるためにも会議の設置は必要だと思う。 ●函館観光の課題の検討ということでは、実際に当地区でガイドにあっているまちあるきガイド(日本語3団体)からも委員として会議への参加が望ましいと考える。

(3) 現計画期間において特に積極的に進めるべき施策

観光振興施策については、その時々々の費用対効果や需要などを的確に把握したうえで、施策展開とその検証を重ね、その都度、継続の判断をする必要があることから、今回、当会議において、観光基本計画に登載している19の施策を構成する85件の具体的取り組みに対し、今後の展開の優先度を評価という形で行ったものである。

その中において、昨今の観光を取り巻く状況としては、

- 個人旅行のさらなる加速化により旅行形態が変化していること
- 体験型観光など観光客の旅行ニーズが変化していること
- 外国人観光客の急激な増加に伴う受入環境の整備が求められていること
- 通年での安定的な観光客来訪が求められていること

以上のことが挙げられ、現状として積極的に進めるべき施策として、

- 新たな観光資源の創出と活用
- 多言語標記・対応のさらなる充実
- キャッシュレス化への対応
- 無料Wi-Fi環境の充実
- 効果が見込まれるプロモーションや商談会への参加
- プロモーション効果の検証
- 冬季観光誘客
- 将来を見据えた観光戦略の制定

という視点が重要との考え方からその評価を実施したものである。

観光基本計画に登載されているものに限らず計画期間内においては、この観点を踏まえた施策の展開をすべきであると報告する。

(4) 次期計画策定に向けて（提言）

ア 観光基本計画の目標値「観光入込客数 550 万人」の維持

来函観光入込客数推計を根拠として観光入込客数 550 万人の達成を観光基本計画の目標値として挙げているが、観光入込客数は平成 28 年度に約 560 万 7 千人を記録し、一時的に目標値を達成したものの、その後は 550 万人の安定的な誘客には至っていない現状がある。このことから、今後においても安定的に 550 万人の来訪が必要と考えられ、観光客の誘客姿勢としては、閑散期を含め 600 万人をも目指す姿勢での誘客プロモーションに努めることを確認したい。

イ 基本計画を戦略的に遂行するアクションプランの策定

人口減少や気象変動など有史以来の未曾有な地域環境の変化が起り始めており、数年後であっても予測が難しい時代となっている。そのため従来の計画策定の考え方は現状には合わず、実効性が危ぶまれる。

そこで、本計画の内容について、緊急性や実効性等といった根拠をもとに戦略的に優先順位をつけ、実現性を重視したアクションプランの策定を行う必要がある。また、基本計画の計画スパンについても、状況に応じた柔軟な運用を図りたい。

ウ 公民連携を前提とした計画遂行のあり方への展開

本計画には、現状の函館市において取り組むべきことが、ほぼ網羅されていると考える。しかし、実現のためのアクションプランと共に、実施体制のあり方、資金の調達方法、根拠となる情報の収集分析方法などといった遂行のあり方について不十分である。また、多岐にわたるボリュームのある内容のため、現状の主に行政がすべてに責任をもって遂行まですることは現実的ではないと考える。そこで観光の特性から考えても、公民連携を前提とした計画遂行のあり方へと展開することが重要である。例えば、DMO/DMC といった公と民とを繋ぎ、遂行力、マーケティング力、ファシリテート力を持った科学的で実践的な組織を形成することが考えられる。

エ 明確なビジョンを踏まえた施策立案のための機会の創出

中間報告書内にある「民」の意見を取り入れる場が必要であると考え。経営者、責任者クラスはもちろん、実践的にマーケティングや営業、企業広報担当者などビジョンを共有すべき現場クラスの意見も取り入れつつ、最終的に市内観光事業者が共有できるビジョンを策定し、それに基づく施策を立案共有する場の創出が必要と考える。

7. 参考

函館市観光アドバイザー会議委員名簿

[令和元年(2019年)9月25日現在]

No.	氏名	所属	備考
1	奥平理	独立行政法人 国立高等専門学校機構 函館工業高等専門学校 教授	市指定委員
2	池ノ上真一	学校法人 札幌国際大学 教授	市指定委員
3	角康之	公立大学法人 公立はこだて未来大学 教授	市指定委員
4	藤原凛	学校法人 野又学園 函館大学 准教授	市指定委員
5	斎藤秀司	函館商工会議所青年部 会長	団体推薦枠
6	渡邊政久	一般社団法人 函館国際観光コンベンション協会 企画宣伝委員会 委員	団体推薦枠
7	佐々木毅	函館湯の川温泉旅館協同組合 副理事長	団体推薦枠
8	飯野智子	函館ホテル旅館協同組合 理事	団体推薦枠
9	渡部十月哉	箱館会 函館バス株式会社 バス事業部営業課 係長	団体推薦枠
10	吉村美悠	一般財団法人 北海道国際交流センター プログラムコーディネーター	団体推薦枠
11	高橋典之	函館善意通訳会 顧問	団体推薦枠

函館市観光アドバイザー会議設置要綱

(設置)

第1条 函館市観光基本計画（以下「計画」という。）の推進にあたり、広く関係機関、学識経験者等の意見を反映させるため、函館市観光アドバイザー会議（以下「会議」という。）を設置する。

(組織)

第2条 会議は、広く観光に関連する分野に属する各種団体から推薦された者および市が指定する者、計11人以内をもって組織する。

(任期)

第3条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第4条 会議に座長を置く。

2 会議は、座長が招集する。

3 座長は、会議の進行と調整を行う。

4 市長は、必要に応じて会議に専門部会を置くことができる。

(意見の聴取)

第5条 会議は、施策展開等の検討に関し、必要があると認めるときは、委員以外の関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

第6条 会議の庶務は、観光部観光企画課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営について必要な事項は、その都度座長が会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成17年9月14日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年11月22日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。